

⑮ 追想、先考患^二痔疾^一、隆冬盛寒、夜或上^二厠^一、頃焉而還、兒覺而知^レ之、每輒傷^レ心、

読み

追想、先考痔疾^{じしつ}を患い、隆冬^{りゆうとうせいかん}盛寒、夜或いは厠に上がり、頃焉^{けいえん}して還る、兒覺めて之を知る、每輒^{まいちゆう}心傷む、

訳

想い出。亡き父は痔を患っていた。真冬の寒さが厳しいとき、夜、厠に行くことがあった。しばらくして部屋に帰ってくる。私は目覚めてこのことを知った。そのたびごとに心が傷み悲しかった。

言葉

痔疾^{じしつ} 症状として自覚される痔。

隆冬^{りゅうとう} リユウトウ 冬の寒さのきびしいころ

或^二アル^一(イ)は あるいは あるときは

頃焉^{けいえん} ケイエン しばらく。しばらくして。

輒^{ちゆう} チョウ すなわち 機会があるそのたびごとに

⑯

追想、隣家有^二老嫗^一、先妣善視^レ之、常慰曰、我而不^レ死、

豈使^二汝至^一困乏失^レ所哉、既而先妣先^二嫗而卒^一、嫗嘗向^レ兒、

猶稱^二此言^一、深感^二先妣之恩^一、不^レ覺涕泣、兒亦爲^レ之愀然、

乃探^二囊中^一、出^二金一銖^一、與^二其子^一、使^二其求^レ所嗜者^一、供^レ之、

尋而嫗亦死、 天保庚子七月廿三日、不肖池田緝識、

読み

追想、隣家に老嫗有り、先妣善く之を視て、常に慰めて曰く、我死なず、豈に汝をして困乏し所を失うに至りしめんや、既して先妣嫗より先に卒す、嫗嘗つて兒に向いて、猶此言を稱えん、深く先妣の恩を感じ、覺えず涕泣す、兒も亦之ために愀然とす、乃ち囊中を探し、金一銖を出し、其子に與え、其の嗜するところを求めさすためこれを供せしむ、尋で嫗もまた死す、天保庚子七月廿三日、不肖池田緝識す、

訳

想い出。隣の家に老婆がいた。亡き母は、この人をよく世話して、いつでも慰めて言っていた。私は生きている間は、あなたが貧しくて生活に困るようなことにはさせませんから。その後間もなく、母は老婆より先に亡くなった。老婆はかつて、私に向かって、この母の言葉を称え、亡き母の恩を感じ、思わず涙を流して泣くのだった。私もこのために、心を動かされた。袋の中を探し、お金一銖をその子に与え、お婆さんの好きなものを求めてあげるようにした。間もなく、老婆もまた亡くなった。天保十一年七月二十三日（二十七歳） 不肖池田緝記す

言葉

豈に汝困乏し所を失うに至りしめんや 使_レ汝至_二困乏失_一所哉
所_二いどころ

既而_二ソクして

その後まもなく やがて

媼_二オウナ

嘗_二カツて

かつて いつも

涕泣_二テイキユウ

涙を流して泣く

愀_二シユウ 愀然シヨウゼン・シユウゼン」とは、顔をしかめるさま。心配そう

なさま。表情を引き締めるさま。

銖_二シユ 秤量の単位。一両の二四分の一

嗜_二シ たしなむ

供_二キヨウ 与える

尋_二ジン ついで。それに引き続いて、

庚子_二コウシ カノエネ

天保庚子_二天保11年草庵27歳